

平成29年度 第1回西伊豆町立文教施設等整備委員会会議録

- 1 日 時 平成29年6月29日（木） 19:00～21:00
- 2 場 所 西伊豆町中央公民館（安良里） 3階多目的ホール
- 3 出欠席 委 員：別紙のとおり
事務局：清野教育長、高木事務局長、山本諭、山本みち代、
江畑和貴
- 4 傍聴者 2名（静岡新聞、伊豆新聞）

事務局長

こんばんは。皆さんご多忙のことと存じますが、夜間の会合にお集まりいただき誠にありがとうございます。早速ですが、平成29年度第1回の西伊豆町立文教施設等整備委員会を開催させていただきたいと思います。私は教育委員会事務局長の高木と申します。暫く進行の方を務めさせていただきますので、宜しく願いいたします。委嘱状等の交付につきましては省略させていただきます、事前に皆様のお手元にお配りさせていただいておりますので、ご了承願います。なお、前回の委員会までは町長がオブザーバーとして出席しておりましたが、今回から委員会での議論の中には加わらないということになりましたので、ご了承願います。それでは、次第にはありませんが、ここで教育長からご挨拶を申し上げます。

教育長

皆さん、こんばんは。本日はお疲れのところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。当委員会は平成28年2月1日に開催されて以来、1年5ヶ月の休会を経て、今回が平成29年度最初の開催です。西伊豆町で懸案となっている学校等再編が主な議題になります。この会は答申や決議文の採択を求められるようなことはなく、それでいて民意を代表する委員会として、町内外の各方面から注目されています。話し合いの経過はメディアによって報道されて、議事録はインターネットを通じて公表してまいります。西伊豆町長はその議事録を読み解いて、町議会議員とともに最終的な判断を下したいとの意向を示しています。ここにお集まりの委員の皆様は、各校各園及び各地域の代表者であり、同時に西伊豆町全体の代表者でもあり、非常に難しい立場であることは私も十分に理解しています。ところが、現状において賀茂幼稚園の本年度の新入園児は3名となりまして、田子小学校は本年度から複式学級がスタートして、賀茂小学校は来年度から県の基準で複式学級に該当する見込みです。また、施設面では各幼保認定こども園が津波浸水域にあって、小学校は校舎の老朽化によるさまざまな問題が生じていま

す。このような状況を改善するには、私たちが未来に対する責任を果たして、将来への見通しが立てられるようにしておくことです。どうかそれぞれが難しいと感じる一線を越えて、自由闊達な議論をお願いします。なお、これまでの経緯につきまして、委員の皆様にはこれからの議事の中で確認していただくとして、中学校の統合案は平成27年度の住民説明会で白紙に戻した経過があります。今回まっさらな状態から議論を積み上げるとなれば相当な期間を要するため、これまでの議論の中から拾える部分については再利用させていただいていることを予めご承知おきください。そして、当委員会の基本姿勢、幼保及び認定こども園の統合、小学校の統合、中学校の統合、給食センターの統合と、事務局においてより具体的で踏み込んだ原案の提示をしていますので、その線に沿って議論を深めていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。

事務局長

次に、次第2の委員紹介になりますが、会議資料の1ページをお願いいたします。本日が今年度初めての会議でございますので、自己紹介をお願いしたいと思っております。名簿の順に簡単で結構ですのでお願いしたいと思っております。それでは最初に高井委員よりお願いいたします。

—委員自己紹介— (省略)

事務局長

それでは、次に次第の3、委員長・副委員長の選任ですが、西伊豆町立文教施設等整備委員会規則第5条第1項及び第2項により、委員長及び副委員長各1名を委員の中から互選することになっておりますが、どのようにいたしましょうか。皆様にお諮りさせていただきたいと思っております。

山本(昭)委員

事務局で案があればお願いします。

事務局長

では、事務局からご推薦させていただきますが、宜しいでしょうか。

—異議なしの声—

事務局長

それでは、事務局から、委員長に区長連絡協議会の会長である安良里自治会長の近藤様、副委員長に区長連絡協議会の副会長である仁科区長会長の高井様を推薦したいと思いますが、いかがでしょうか。

—異議なしの声—

事務局長

ありがとうございます。異議なしというご意見をいただきましたので、委員長に近藤委員、副委員長に高井委員ということで、よろしく願いいたします。では、委員長・副委員長は席を移動していただきたいと思います。

—委員長・副委員長移動—

事務局長

それではここで新しく就任されました近藤委員長に、ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

委員長

みなさんこんばんは。本日はお忙しい中ご苦勞様です。委員長ということで選任されましたが、前から区長会長が委員長と副会長をやるという事が恒例になっておりまして、委員長に選ばれましたが、みなさんの御協力によりましてこの大変難しい統合問題ということですが、先ほど教育長がおっしゃったようにだんだん人口が減っていく中で、統合は避けられないということは皆さん思っていると思いますが、それが各論になると話がまとまらないということで難しい面があります。先ほどの話に合ったように、この委員会は方針をまとめる場ではなくて、皆さんの意見を活発に述べていたなかで、最終的には町長と議会が最終判断をするような方向ですから、みなさんの活発な忌憚のない意見を出していただいて、その色々な意見の中から適正な方法というのは町長や議会が進めていくのではないかと思いますので、1年くらいの期間になるとは思いますが、何回か会議を重ねる中で皆さんの意見が出尽くすような活発なご意見を期待しております。本日はよろしくお願いします。

事務局長

ありがとうございました。これからの議事進行につきましては、委員会規則第5条第3項の規定により、「委員長は、会務を総理し」とありますので会議の進行の方をお願いしたいと思います。

委員長

それでは、議事に入ります。議題（1）文教施設等整備委員会の基本姿勢（事務局原案）について、事務局から説明をお願いします。

教育長

それでは座ったまま説明させていただきます。お手元の資料の2ページを開いていただきたいと思います。そこに文教施設等整備委員会の基本姿勢とあります。こちらは事務局原案であります。はじめにこちらに書いてあることを読み進めたいと思います。旧賀茂村と旧西伊豆町が合併して12年が過ぎました。学校等再編はいずれ合併後の西伊豆町が向き合う課題であるように語られていましたが、合併してから12年後の今日まで、学校等の再編が進展した形跡はありません。その間にも町内の児童数・生徒数は著しく減少を続けて、2011年3月の東北大震災後は校舎、園舎の立地や構造等が一層重要視されるようになって、学校等再編は先送りできない課題になりました。西伊豆町における学校等再編とは具体的に、①幼保（認定こども園を含む）の統合、②小学校の統合、③中学校の統合、④給食センターの統合、⑤それぞれの設置場所の決定と必要な施設の建設を意味します。どれを取っても容易に解決できない課題です。町及び町教委関係者には、児童・生徒の明るい未来に思いを馳せて、力強く推進していただきたいと思います。本案が町内の各層各段階で検討を加えて、さまざまな批判に耐えうる西伊豆町立学校等再編計画になることを期待しています。以上これからの話し合いを進めるにあたって、当委員会の基本姿勢を示すものです。これには当委員会が基本的に作業を進める私たちの背中を押す委員会であってほしいという願いを込めております。次になぜ学校等再編なのか、児童・生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範能力を身につけさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うには、一定の規模の児童・生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。学校等再編は地域にとって大きな変革であり、反対する意見や見直しを求める声も出て来ると予想されます。町及び町教委関係者には、さまざまな意見を汲み取る柔軟性ととともに、終始一貫した方向性が求められます。

そして、できるだけ多くの人たちが学校等再編の必要性を理解するよう努めていただきたいと思います。こちらに書かれております上の5行につきましては、そこに書かれておりますように、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引」の引用です。なぜ学校等再編なのかというテーマについて、子ども達を中心に簡潔に記述されておりますので、そのまま引用させていただきました。下の4行は当委員会から町及び町教委関係者に対する注文ととらえていただければよいかと思っております。以上が文教施設等整備委員会の基本姿勢についてこの場でご承認いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

委員長

ただいまの事務局の説明に対しまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。特にないようでしたら、統合に向かって話し合いを進めていくということで、基本姿勢につきましては、異論はないということによろしいでしょうか。それでは統合に向かって話し合いを進めていくということによろしく願いいたします。それでは次へ進ませていただきます。(2)の今までの協議経過について、事務局から説明願います。

事務局長

では、(2)の今までの協議経過についてですが、皆さん事前に資料の確認をしていただいていると思っておりますので、簡単に説明をさせていただきます。3ページからになります。平成26年度から園、小学校、中学校の統廃合の検討に入りまして、文教施設等整備委員会での検討の他、保護者説明会などを開催し、当初は反対意見はほとんどなく、早期の統合を望む声が多くございました。それを受けて、4ページになりますが、平成27年6月29日の当委員会におきまして、町の考え方を示したところであります。内容といたしましては、①賀茂中学校の生徒数が急激に減少することから、まず中学校の統合を進めたい。②時期は平成29年4月1日としたい。③場所は現在の西伊豆中学校校舎を使用したい。④吸収統合でなく、新たな中学校として開校したい。というもので、委員の皆様には概ねご理解をいただきましたので、住民説明会を開催することとしました。ところが、7月13日開催の宇久須地区、同月14日開催の安良里地区の住民説明会において、町が示した統合案に対してほとんどが反対意見だったことから、統合案を白紙撤回し、委員会での継続協議といたしました。5ページになりますが、平成28年2月1日開催の当委員会におきまして、今後の整備方針について意見交換をおこない、その意見を基に町としての案を再度お示しすることにいたしました。町長選挙も控えていたこともあり、その後は当委員会の開催はございません

でした。以上簡単ではありますが、これまでの経過説明とさせていただきます。

委員長

ただいまの事務局の説明に対しまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。前の時には中学校の統合を主に議論しましたが、委員会の方では先ほども説明がありましたが、異論がなく統合しなければという意見だったのですけども、宇久須、安良里地区での説明会で出ました主な意見は、西伊豆中学校では津波が来ると、1階が浸水してしまうようなところには通わせたくないという意見が多かったです。それと平成29年までに統合という案が急にでたような印象で、なんでそんなに早急に統合しなければならないのか、準備期間が短いのではないかという意見が主だった意見でした。今までの経過につきまして、意見や質問はございませんか。特に無いようですので、次へ進ませていただきます。(3)「今後の子供の数の推移について」を事務局から説明願います。

事務局長

では、(3)の「今後の子供の数の推移について」ですが、まず、9ページをご覧いただきたいと思います。こちらは、平成29年度の乳幼児、小中学生の数を取りまとめた表になります。一部訂正があります。表の一番上に記載してあります、5月17日現在での今年度出生予定数ですが、昨日の6月28日現在で、12月31日の出産予定日までとしていただきまして、仁科小学校区が7人を9人、合計の13人を15人に変更願います。今年度も多少増えるにいたしましても、20人いくか、いかないかというところではないかと思われま。全体といたしましては、ご覧のとおり年々減少傾向にありまして、暫くは町全体で20人前後の出生数で推移するものと思われま。では、7ページに戻っていただきたいと思います。小学校の児童数の推移予想であります。まず、複式学級となる基準についてご説明をさせていただきます。一番下に記載してございますが、当町では、複式学級の編成については、県の教育委員会が定めた基準と同様でありまして、1年生を含む場合は8人以下、それ以外は16人以下になると複式学級となってしまいます。ただ、米印の3つ目のところに記載してございますが、2つの学年の合計数が15人か16人の場合は、静岡県独自の措置がありまして、複式学級解消加配として、教職員を配置してくれます。とは言え、教職員数全体といたしましては1人減となり、校長、教頭を除く学級担任外の教職員はいなくなることから、学校運営は厳しい状況にはなってしまいます。法律上は町が児童や生徒の実情に応じて学級編成基準を変更することも可能ではありますが、

それには町単独で常勤の教員を任用しなければなりません。そうなりますと、町の財政的負担が大きい他、県と同様の研修体制の整備が必要であったり、国家賠償法に基づく補償に代わる補償の確保など、県の教育委員会からも小規模自治体では現実的には難しいのではないかという助言もいただいております。現実的な町としての対応といたしましては、非常勤の補助教員を配置し、子どもたちや先生方の負担軽減を図るしかないと考えております。では、一番上の仁科小学校ですが、まず、訂正をお願いします。先ほど今年度の出生予定数を修正させていただきましたので、それと併せて平成36年度の1年生を9人に、合計を66人に修正願います。平成36年度までは複式学級は出現しないと想定をしておりましたが、平成36年度の2年生が転出者があり10人になるといい情報がありまして、そうなりますと2・3年生合わせて16人となりますので、複式学級の対象となってしまいます。児童数は現在の141人から平成36年度には66人、65人と半分以下になると想定しております。次に、中段の田子小学校ですが、皆さんも御承知かと思いますが、今年度から2・3年生が併せても12人の複式学級となったため、先ほども申し上げたとおり、県の加配措置もないことから、町が単独で複式学級の補助教員として非常勤講師を配置しているところであります。また、4年生の8人は、全て男子であります。次に、賀茂小学校ですが、現状のまままで推移いたしますと、来年度から2・3年生が複式学級となります。ただ、2学年併せて16人ですので、県の複式学級解消加配により、臨時の常勤講師が配置はされますが、先ほども申し上げたとおり、教員は1人減となりますので、級外の教員がいなくなるにより学校運営には影響が出てくるかと思われまます。33年度には県の加配もない複式学級になる思われまます、学校統合が進まなければ、今年度の田子小と同様に町で複式学級補助の非常勤講師を配置するしかないと考えております。さらに、36年度には、現在の生徒数の半分以下となり、全ての学年が複式学級になる可能性があります。先ほど田子小で全て男の子の学年があると申し上げましたが、賀茂小では、1年生の通常学級の7人全てが女の子となっております。一番下が3校合わせた児童数となっております、平成30年度から全ての学年が35人学級となることから、2クラスとなる学年もありますが、平成36年度には統合しても全ての学年が1クラスになると想定しています。では、1枚めくっていただきまして、8ページをお願いします。中学校の通常学級の生徒数ですが、まず、西伊豆中学校は、現在、静岡式35人学級の下限が撤廃されたことから、全ての学年が2クラスとなっておりますが、平成35年度からは、全ての学年が1クラスになると予想しております。10年後の平成39年度の生徒数は66人と推計されていまして、現在の半分程度になると思われまます。次に、賀茂中学校ですが、現在も全ての学年が1クラスでありまして、

10年後の39年度には、全てのクラスが一桁の生徒数となり、現在のちょうど半分になると想定されております。一番下の表が、2校合わせた生徒数になりますが、10年後の39年度からは全ての学年が1クラスとなると想定されております。以上、今後の児童、生徒数の推移についての説明とさせていただきます。

委員長

ただいまの事務局の説明に対しまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。西伊豆町の人口が減っていく中で、子どもの人数もあと何年かしたら現在の半分になってしまいます。これを認識していただいて、これからの議論の参考にしていただきたいと思います。次へ進ませていただきます。(4) 学校等再編の事務局原案について、事務局より説明願います。

教育長

それでは資料の10ページをご覧ください。こちらに学校等再編の文教施設等整備委員会案の原案をお示ししております。この内容につきましては一昨年に中学校統合の話し合いを持ったところ、それが猛反対にあいまして、白紙撤回されたという経過があります。それよりもさらに進んだと言いますか、ひどい原案と思う方もいるかもしれません。決してチャレンジをしているのではございません。色々と考えてやはりこれかと思うところで提案させていただきます。順に幼保認定こども園の統合から説明させていただきまして、解説を加えていきたいと思っております。該当する同年代の子どもたちが通う施設として、町内には賀茂幼稚園、伊豆海認定こども園、仁科幼稚園及び同保育園があります。設置場所も園種も異なり、いずれも津波浸水域にあるため、統合とともに洋らんセンター跡地への移転を希望します。統合後の園種は各園の機能を併せ持つ認定こども園が適当と思っておりますが、住民のニーズと現場の意見を聞いて総合的に判断していただきたいと思います。そこにあります洋ランセンター跡地について、現在ボーリング調査を実施中です。これが果たして園地、校地に適しているかは5月から初めて、大体業者の方では6ヶ月から8ヶ月かかると話を頂いております。従いまして、責任ある立場の方たちはどこへとは明言しておりません。ここに述べたのはこの委員会の希望です。次に小学校の統合について、校舎の老朽化と複式学級を解消するためには小学校に緊急性が高く、設置場所に関しては幼保等に緊急性が高く、いずれにしても早急な対応が求められます。小学校の一括統合は、過去に伊豆市が4校一括統合を伊豆市学校再編計画に位置づけていましたが、地区内でそのような動きはありません。町及び町教委関係者は県教委や近隣市町及び近隣地教委と連絡・調整を行い、課題解決に当たるよう望みます。なお、統

合後の新しい設置場所は洋らんセンター跡地を希望します。こちらも洋らんセンター跡地を希望しますということで、小学校、幼保、正しくはこども園になる可能性も十分にありますが、それが隣接するような形になります。小学校については、現在校舎の老朽化について困っていることがあります。例えば仁科小学校の雨漏り、田子小学校の給水施設の老朽化などあります。田子小学校ではすでに複式学級が始まっていることは先ほど説明した通りです。賀茂小学校も近い将来複式学級となります。また、田子小学校の4年生の男子8名。賀茂小学校の1年生女子7名ということで、男女が混じったの教室とはなっておりません。一括統合について少し拘りを持っているわけですが、一括統合した場合には教職員の過員状況を生む恐れがあります。過員というのは、教職員の人余りです。一般企業では余剰人員という言葉を使っているかと思えます。教職員の場合、人が余って職を失う状況を作ってはならないと法律で定められておりますので、そのようなことはできないので、そここのところの一括統合の文言には拘りがあります。次に中学校の統合について、昨年までは西伊豆中・賀茂中・松崎中の一括統合も選択肢の一つにありましたが、既に下田市が下田中・下田東中・稲生沢中・稲梓中の一括統合に向けて動き始めたため、西豆地区における数年内の一括統合は極めて難しい状況になりました。そこで、西豆地区における中学校再編は段階的に、できるだけ速やかに町内の西伊豆中と賀茂中を統合し、近い将来の松崎中との統合に備えるのが現実的です。町立統合中(仮称)の校舎、校名、校章、校歌等は暫定的に西伊豆中と賀茂中のいずれかを使用して、町内の学校等再編後は町立統合中(仮称)と松崎中との統合についての協議を松崎町と始めていただきたいと思えます。なお、町立統合中(仮称)の設置場所は、西豆地区3中学校の地理的な位置関係により、現在の西伊豆中が適当ではないかと考えます。3行目あたりに記載されている下田に一括統合が行われて、同じ時期に西豆でも一括統合となりますと、教職員の振り分けが不可能であり、お互いに邪魔しあうという結果になります。ですから一括統合というのは環境を変えるということでは有効なのですが、そのような状況により、西豆でも一括統合は厳しいと言わざるを得ません。それから4行目から6行目あたりにかけて、ここでのゴールは3校での統合。賀茂中学校、西伊豆中学校、松崎中学校。この3校の統合をゴールとして考えております。したがって、賀茂中学校と西伊豆中学校が統合して、町立統合中学校というのは暫定的な措置ということになります。そこにある校舎、校名、校章、校歌等は暫定的にとありますが、校章や校歌につきましても、職員や生徒が自分たちの学校の校章や校歌を決めようではないかというような気運が高まれば、それはそれで結構なことではないかと考えております。次に松崎中学校との統合後、どこに置くかについてなのですが、その構想としましては現在頭の

中にあります。恐らく皆さんも描いているとは思いますが、これについては相手もあることなので、入る先の管理している学校もあることですので、これについては今は差し控えたいと思います。次に西伊豆中学校と賀茂中学校ですけども、両方の学校へ訪れたことはありますのでしょうか。これはあくまでも私が見る限りですが、校舎、立地は賀茂中学校の方が優れていると思います。ところが位置が問題になります。例えば統合した中学校を賀茂中学校に置いた時、仁科地区の人たちはどう考えるのでしょうか。これは実際そうってみなれば分からないと思いますが、もし私が仁科地区に住んでいたとしたとすれば、賀茂中学校までわざわざ通うのか、すぐ近くには松崎中学校があります。行政区は違いますが、松崎に通うとなれば歩いて通えますし、バスも頻繁に通っております。あくまで仮の話になりますが、賀茂中学校までわざわざ通わせることを考えたのなら、松崎中学校を選ぶであろうと。そういう方が何人も出た時に、教育委員会としては認めないと言えるのか。これはやはり市町の境を跨いで、松崎中学校へ流れる生徒も相当考えられると思いましたので、西伊豆中学校へというように提案いたします。そしてまた将来的には松崎中学校と統合も考えておりますので、その松崎中学校との統合となったら組合立中学校というのは、今のところ松崎町内を想定しております。この中学校をどこに置くかについて非常にもめたところですが、私の考える結論は現在の西伊豆中学校となります。次に4番目給食センターの統合について、現在、西伊豆町内には給食センター2ヶ所と給食室1ヶ所があって、いずれも老朽化が進んでいます。これらの施設は学校等再編が進展した際、給食センター1ヶ所を除いて不要になるため、給食施設の統合を進めていただきたいと思います。また、統合とともに町立統合小(仮称)と町立統合園(仮称)の隣接地への移転を希望します。ということでこのページにつきましては、この場でご意見、ご感想を述べていただきたいと思いますし、また、それぞれが所属する地域や団体に持ち帰ってご意見やご感想を取りまとめて、第2回の委員会を出していただきたいと思います。よろしく願いします。

委員長

ただいまの事務局の説明に対しまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。前回の会議の時は、たたき台となる意見を作ってくれないかという意見がありましたので、それで今回皆さんの話し合いのたたき台になる原案を示したと思うのですが、これについては1番から皆さんの意見を聞いていきたいと思います。1番について幼稚園保育園のPTA会長様と園長様の意見をお願いします。

窪田委員

先日役員会にて保護者の方に、この会についての意見を聞いてまいりました。統合は必要であるという意見があったのと共に、この洋ランセンター跡地をボーリング調査実施中ということだったのですが、地盤的にどうなのか、周辺が観光地のため、そのような場所に作るのはどうなのか、新しい園舎を作るのは現実的ではないというような意見を頂いてきました。後は保護者の都合であるのですが、今の場所から若干送迎が遠くなってしまう、新校舎を建てるのであれば、他の形でお金を使っていただきたいというような意見もありました。賛成の意見もありました。今の場所ではとても海に近いのでとても危険ということを心配していることでありました。しかし前の園舎があった場所は今の場所よりかは海より遠かったみたいなのですが、なぜ海の方へ移転したのか。また、避難タワーを作ってほしい。園児たちが裏山までの500mを全力疾走で逃げても、国が想定する津波の到達時間には間に合わないですとか、災害に対する意見が一番多かったです。なので、高台移転は必要だという意見は多かったです。実際意見を頂いた保護者の中には、東北の震災を体験した方がおり、子どもが訓練と同様な100%の避難する力を発揮できないことが想定されるので、今の場所では危険ではないかという意見が多数ありました。以上です。

齋藤（英）委員

伊豆海認定こども園のPTA会長をさせていただいております、齋藤です。まだ役員会が開かれておりませんので、文教施設等整備委員会の内容については理事会にかけておりません。なので私の個人的な意見として回答させていただきます。立場上役場の職員ということで言いづらいこともあるのですが、個人の意見ということで聞いていただければと思います。私個人の意見としては、先ほど教育委員会からの話の通り、幼児や児童が急激に減っていくことが目に見えておりますので、個人的には早急に統合していただきたいと思います。教育委員会の意見として洋ランセンター跡地ということなのですが、ボーリング調査中ということで地盤の問題、そして水利の問題。あそこは升がありまして、水がはけきれないという問題があります。そこのあたりがクリアできるかということと、海の津波ばかりを皆さん心配しておりますが、山の津波は大丈夫かというところもあります。個人的には統合は賛成です。候補地も洋ランセンター跡地で反対ではないです。この問題がクリアできれば賛成です。あと1点あります。今ある施設は3園あるのですが、新しく洋ランセンター跡地に作るとなるとその3つが空くということになると思います。そのまま別の用途に使えるればいいのですが、潰して更地にするの

か、再利用するのもかも合わせて議論いただければと思います。

井堀委員

この間役員会で、初めての会でしたので軽くですが保護者の皆様と話し合いをしました。少ない人数では何もできないので3園が統合されると良いと思うという賛成の意見や、地域に幼稚園はあるとよいが統合は仕方ない、土地は洋ランセンター跡地と決まっておりますが、できれば田子の方が近いのでそちらの方が良いという意見もありました。同じような意見なのですが、地元にあるのが一番いいという意見もありました。また人命第一という意見が多かったです。あと自分事ではございますが、洋ランセンター跡地は今調べてもらっておりますが、地盤についても心配になります。また、事故等が起きた時にすぐに行ける距離ではないため、とても心配です。また次回も話し合いをして続けたいと思います。

委員長

園長先生方も立場上言いにくい所もございますが、何かありましたら一言ずつお願いいたします。

山本(昭)委員

個人的な意見も入るかもしれませんが、先ほどの仁科幼稚園保育園の保護者会の会長様の話の中で、保護者からは地域から子ども達の声が聞こえなくなることや、地域とのかかわりの中で子ども達が育っていくところが心配されることと、仁科幼稚園保育園については、平成12年度に建設されて、老朽化が進んでおります。現在修繕しなければならない場所が出てきております。ですが、今年度今まで保護者の心配事で行った避難場所が屋上に建設されました。先ほどもお話したとおり、高台へ避難するのに5分以上かかっておりましたけども、とりあえず屋上へ避難することで想定される津波の高さはクリアしておりますので、現在の0歳児から5歳児の子ども達が避難をすることができるようになりましたので、保護者は一安心をしているところです。それから保護者としては大沢里地区も入っておりますので、すぐに迎えに行くことができない地区だということもありますけども、兄弟関係で小中の子ども達が一緒にいるところで引き渡しができる方が安心だという意見もありました。後は職員として、園長としてということもあります。私たち西伊豆町には4園の保育園、幼稚園があります。各園とも地域に根差した特色のある保育園、幼稚園ということで保育をしております。それで仁科地区においても幼稚園、保育園と単独で施設がありますけれども、先ほど教育委員会からお話にあったように、本当に園児数が減少しております。毎年10名以上の子ども達が減少しております。今年度においても、保育園

は34名。幼稚園のほうが26名と今までは100名単位でいた子供たちが、現在では60名となっております。各園の特色ある保育を大事にしていきたいところではございますけれども、これからはこの園児数の減少にも伴って、西伊豆町の幼児教育として、統合をして考えていくべきではないかと職員の中で話しております。それから場所についても、跡地ということで話が前からありましたが、先ほど伊豆海の会長様がおっしゃったように、今までの生活の中で土砂崩れや水の被害がありましたので、26年度から他の場所はどうかという意見は出ささせていただいております。

須田委員

少人数の保育もたくさんいいところがあります。小さい子は大きい子にあこがれ、大きい子は小さい子の面倒をみて、異年齢保育を大切にしている園にとっては少人数でもとてもいいところがあります。賀茂幼稚園、伊豆海認定こども園は地域の方にとっても大切にされておまして、地域の良さをたくさん吸収できているところもあります。ただ、あまり人数が少なくなってしまうと3人で運動会などを考えると今後どうなのかと思います。それと津波浸水地域、土砂災害地域ということで、地震や大雨が降るたびに毎回不安な気持ちになります。安全は場所に園舎があることを希望します。

委員長

それでは小学校のPTA会長さんの方から意見をお願いいたします。次に先生方もお願いします。

高柳委員

仁科小学校PTA会長の高柳です。まだこの議題について学校と話し合いを持っていないのですが、第2回目には良い意見が述べられたらと思います。個人的な意見は統合するのは良いかと思っております。前回の統合の時に説明会に出させていただいたのですが、その時は中学校を先にやりたいと意見で話が進んだと思うのですが、その時にはどちらも反対ではなかったのですが、結局賀茂中学校の方が西伊豆中学校に行くのは反対という意見が多かったと聞きまして、前町長が仁科地区の説明会に来て説明した時は、無かったことになってくれという一言で終わりました。今回も中学校は西伊豆中学校に統合となっておりますが、結局こちらは賀茂の方たちを説得しなければ同じことの繰り返しになると思います。洋ランセンター跡地に統合となると、賀茂の方は遠くなるし、他の地区の方も遠くなります。保護者の間では送り向かいがネックになっているのではないかという話もありました。このような意見が多いかと思っておりますので、その問題を何とかするのが解決の近道かと

思います。

真野委員

田子小学校のPTA会長です。唯一田子小学校が複式学級となっておりますが、プラスの面はあまりなく、マイナス面の方が多いと思います。始まってまだ3ヶ月くらいですので、まだそのような話は私のところには来ておりません。個人的な意見とすると、統合した方が良いです。複式学級で1学年5人くらいになってきますと、集団生活という面でどうかと思うところがあります。まだ役員会で意見の取りまとめをしておりませんので、次取りまとめでいい意見を得られたらと思います。

山口委員

賀茂小学校PTA会長の山口です。個人的な意見になるのですが、ここに出ている内容で特に違和感はないと思います。統合にもどちらかと賛成です。まだ話ができておりませんので、一度持ち帰ってみんなで話し合いたいと思います。

高橋委員

仁科小学校長の高橋です。先ほどPTA会長さんからもお話がありました通り、役員会が出来ておりませんので、そちらの方の考えをしっかりと聞いて次会にお応えできるようにしたいです。前回私は南上小学校の校長をしておりまして、南伊豆でもこのような統合の審議会を経験してきたのですが、その中で一番大事にしていくことは、子ども達の気持ちと保護者の安心感ということですので、子ども達はまだ小学生ですので上手に判断できませんので、保護者の方がどうしたら安心なのか、安心して学校に任せてもらえるのかということを考えながら、意見を聞いてみんなでじっくり考えていきたいと思っています。

浅賀委員

田子小学校長の浅賀です。今年複式学級になっておりますが、補助教諭ということで先生を付けていただいております、2年生と3年生は別々に授業を行っております。授業の面では、人数が少ないときめ細やかな指導が出来ていると思います。小さい学校はそれなりにすごく丁寧な教育が出来ていると思うのですが、先ほど事務局からありました通り、4年生の8人全て男子で授業を行っておりますけれども、そういう状況は私個人的にはあまりよくないのではないかと思います。やはりそこに女子がいて、女子に対しての優しさや、あるいはお互いに協力するという環境にあった方が、中学で女子と一緒にいるよりかは、戸惑いはないのではないかと感じます。それとも

う一つ。少人数ですと仲がいいときは良いのですが、一度関係が悪化すると逃げ場所が亡くなってしまう可能性があります。このような人間関係の問題はとても大きなことになってしまいますので、多い方が良いということと、競い合うということも大事なのかと思います。お互いが切磋琢磨することが少ないかと思います。いい面もあるし悪い面もあるので、どちらが良いのかどちらが悪いのかまだ判断できないところでございます。

平馬委員

賀茂小学校の平馬です。今回、幼少中を含めた統合というのを初めて聞きました。職員や保護者とはまだ話をしておりませんので、次回までに話をして意見を持ってこられたらと思います。

委員長

それでは次に中学のPTA会長さんお願いします。

山本（明）委員

西伊豆中学校PTA会長の山本です。まだ西伊豆中学校PTAでは話し合いの場を設けていませんので、私としては出来れば役員と学校の先生を入れて話し合いをして、みんなの意見を吸収して次回にもってこられたらと思います。私個人としては当然時代の流れや町内の人口の推移をみると、当然再編は必要だということは分かりますので、進めていく方向が正しいのではないかと思っております。

齋藤（一）委員

賀茂中学校も役員会で話し合っていないので、次回の委員会で意見交換をさせていただきたいと思います。やはり統合は聞いていても、納得することだと思います。ただ、距離が問題だと思います。通学経路など具体的なお話を含めて考えて行ければと思います。

桑原委員

西伊豆中学校の校長の桑原です。統合についての意見集約は先ほど会長から話もありましたが、まだ行っておりません。私も今年度赴任したばかりなので詳しいことは分かりませんが、10年ほど前にも西伊豆中学校で2年ほどお世話になっておりました。西伊豆中学校と田子中学校が統合して人数は190名当りです。それから4年後くらいに私が来た時には149名くらいでした。現在116名ということで30名くらいしか減っておりませんが、資料にもあります通り、今後10年後は60数名になるということで、急速

に人数が減っていきます。今行われている西伊豆中学校教育活動をそのまま維持していくのは、大変厳しいか思います。実際に110数名おりますが、部活動では同学年でチームが組めないということ、教科の関係でも先生方の専科がないという状況になっております。そういった面からも色々な政策を考えるのは必要かと思えます。

佐々木委員

賀茂中学校の佐々木です。小規模校のメリット、デメリットにつきまして、先ほどから述べられているとおりでと思います。また、本校につきましても職員や保護者の方にはまだ話をしておりませんので、今後話をして意見を聞く中で、今後の委員会へ望んでいきたいと考えております。

委員長

今回幼・少・中全ての統合の案というものを初めて聞いたので、議論はこれからというところが多かったわけですが、事務局に確認したいのですが、幼少中の統合をいっぺんにやろうという考えなのですか。それともある程度予算的な措置もあると思いますので、どこを優先させる、何年かけて統合するというような考えはあるのでしょうか。

教育長

今現在は幼保も小学校も中学校も児童数、生徒数が減っておりますので、いずれも急がなければならない事態に陥っております。いずれこうなることは何年か前には予想できたはずでありますけれども、その時点で手を付けてこなかった、又はこれなかったということが、今ここに集中しているという状況を生んでおります。本当は一つ一つじっくりと時間をかけて仕上げたいところではありますが、しかし今ここに至っては同時に進めなければならない状況となっております。この案で行きますと、中学校は現在ある西伊豆中学校へ統合とありますので、そこは短期間で済むかと思えます。小学校については、一括統合ということですので、勤務している教職員の割り振りに時間がかかるかと考えまして、掘ったのですが、ボーリングの調査だけで大体1年間近くは期間を要し、校舎建設の期間というのも自分たちが思っていたよりも長くかかって、そこが完成を伸ばしている要因になっているかとみられます。なので、同時に進めたとしても、中学校は他に比べたら早く、幼保・小学校・給食センターは時間を置いてということになります。

委員長

幼稚園、小学校、中学校の関係者に意見を言っていました、他に

ご意見はありますか。

副委員長

質問させてください。下田地区が統合を先行している関係で、西伊豆は遅れてしまうという話のようですが、教職員の配置の問題で西伊豆が遅れてしまうのでしょうか。

教育長

そういうことになります。

副委員長

話しの中でありましたが、昨年までは中学校を先行しておりましたが、今回は幼稚園から小学校、中学校まで一括で統合する考え方になりました。先ほど教育長から話がありましたが、中学校の方が先行しやすくなっているというような話でしたが、中学校を先行していくという理解でよろしいですか。

教育長

同時にスタートしたとしても、その終点は中学校の方が速くなるというように考えております。それは中学校は校舎の建設を伴わない、また、一括統合を伴わないという理由からです。

委員長

P T A会長さんや校長先生方の意見は聞きましたが、区長さんたちは意見有りますでしょうか。

松田委員

統合についてですが、各地区で園や校舎、どこに通うだとか、遠くなるのが嫌だとか、自分の地区から子どもの声が聞こえなくなるだとか、これを言っていたら話は進みません。話し合うときにはしっかり説明をして、話をまとめてもらわないと進まないと思います。確かに子ども達の声が聞こえないのは寂しいと思います。私の家は田子小学校の近くにありますが、今は水泳の練習でとても元気な声が聞こえてきて、何となく嬉しい気持ちはします。それが無くなると寂しいという気持ちは分かりますが、それをどの地区でも言っていたら、全然進んでいきません。それと距離もそうです。遠いと通わせるのが大変だから嫌だというのは、スクールバスを出す等の対策を考えていると思います。路線バスを使ってと言うのは考えていないと思います。そのあたりもししっかり説明して、納得してもらわないと同じことの堂々巡りになってしまうと思います。

森委員

松田委員と同じ意見なのですが、教育長が先ほど言ったのですが、中学校の場合は統合するとしたら、校舎は賀茂中学校の方が安全だと言っておりました。ですが賀茂中学校からすると、仁科から通う人たちが賀茂中学校は遠いので松崎中学校に行くことも考えられるため、それを説得できないかもしれないと言っておりましたが、それが説得できないのならば統合できないと思います。統合すると決めたら覚悟を決めて、説得をして、こっちが安全ならばこちらに決めて。結局松崎と統合したら校舎は松崎になるのですよね。そうすると宇久須から松崎は遠いですね。そんなこと言っていたらできないとは思っているので、安全な所に持って来て、子どもたちのことを考えて言った方がいいと思う。それと資料を読んでいじめの問題と書いてあるのですが、西伊豆中学校は荒れていたのですか。賀茂中学校の人たちがいじめが心配という声がありました。そういうところは何処にもあると思いますが、そこは学校の先生方達に任せるしかありません。それと今は保護者が甘いと思う。子どもを叱れない親が多すぎると思う。もうちょっと子どもの悪い所をちゃんと怒れるようになってほしい。いじめは本当にあってはいけないものなので、学校にお願いをしたい。学校としては安全な所が良いと思いますので、それはもう事務局の方で説得してください。もしやるのならば賀茂中学校の方が良いと思います。

委員長

他に全般的な意見はありますか。今回は第1回目ということで、初めてこのような案が示されたことで、これから各関係者と議論をして意見を持ち寄るということですから、この次にまた意見を求めたいと思います。前の時には町は先行してやろうという話でしたが、保護者との話し合いの中で白紙になりましたが、私も話し合いに出席して聞いておりました、統合という話は前から聞いておりましたが、西伊豆中学校に行くという話は唐突のように出てきて、後1.2年で行うということで、保護者がそんなに早急にと抵抗があったという感じと、なぜ賀茂中学校の方が安全なのに、津波浸水区域2mもあるところに行かなければならないという意見で賀茂中学校の保護者たちが抵抗したのではないかというのが私の感想でした。こういう案が出ましたので、早急に持ち帰って役員会等でこのような話があったということをご皆さんに広く周知してもらわないと、また唐突に話が出てきたということになってしまいます。統合の話は何年かかけて周知しなければ抵抗感は消えないと思いますので、早急にみなさんに報告していただきたいと思います。給食センターの統合については、学校の統合が進まなければ給食センターの

統合も進まないと思うのですが、学校を統合しなくても給食センターだけ統合するという話ではないということですか。これは学校統合は進んだ後ということによろしいですか。

事務局長

給食センターにつきましては、学校統合と合わせて実施をしたいということで考えております。先行してやることも可能でありますけども、教育長の方から説明があったとおりの同じ場所にとということで考えておりますので、合わせて実施をしたいと考えております。

委員長

給食センターにつきましては、今報告がありました通り、学校統合が進む中で考えたいということですので、学校統合の議論が本格的になってから進めて行ったらいいと思います。学校統合の進み具合によってこちらも議論していただきたいと思います。ではさいさん言いましたとおり、持ち帰った中で色々な意見を貰って、次回の時に報告していただきたいと思います。それでは(5)の今後の進め方の案について事務局の方で説明お願いいたします。

事務局長

それでは、(5)今後の進め方(案)について、ご説明させていただきます。今回、町の再編についての考え方をお示しし、皆様からご意見をいただいたところではございますが、本日の協議内容も踏まえて、各所属団体で改めて意見聴取をしていただき、9月に開催を予定しております第2回の委員会で再度意見交換をさせていただきたいと考えております。そこでの意見を踏まえて11月に開催予定の第3回委員会におきまして、再編の方向性を皆様にお示しし、委員会としての方向性の確認が出来ればと考えております。その後、小学生以下のお子さんがいらっしゃる保護者の方々を対象に保護者説明会を開催し、最終的な町の再編方針案を取りまとめ、1月の第4回の委員会でお示ししたいと考えております。そして、今年度末となる3月に第5回の委員会を開催し、町としての最終方針の報告をさせていただきたいと考えております。今後の進め方の案につきましては以上となります。

委員長

ただいまの事務局の説明にありましたが、後4回の委員会を開催して、3月までにこの会としての方向性をまとめて、町の方へ報告をして最終的には議会や町長の判断を仰ぐという格好になると思いますので、今後一年間大変になりますが、色々な役員会や関係者の意見を聞きまして、この委員会の場

に持ち帰って、最終的にいい案が町の方に出せたらと思っておりますので、よろしく願います。(6) その他について、事務局から説明願います。

教育長

学校等再編はどんなに急いでも、1年後や2年後に実現することはありません。ところが、これまで学校等再編が進まなかったことで、理想的な園や学校の姿と現状が著しく乖離している点も気になるところです。一つは仁科幼稚園と仁科保育園についてです。仁科幼稚園と仁科保育園は同じ敷地内の同じ建物内にあって、近年はどちらも園児数が減少し、保護者は幼稚園より保育園へ入園を希望する傾向にあります。職員の勤務も厳格に幼保で分けるのは難しく、既に認定こども園と同様の勤務形態となっているため、平成30年度には認定こども園にしたいと思えます。よろしいでしょうか。

窪田委員

実際は年中から幼稚園児と保育園児が交わって同じクラスで生活をして、2時に帰る幼稚園組とそこからお昼寝をして帰る保育園組に分かれるのですが、それ以外はみんな一緒に、年中よりも上の子どもたちが小さい子どもの面倒を見たり、遊んだりしております。保護者的には変わりはなくみんな交わって遊んでいると思えます。よく幼稚園と保育園というのは、教育の方と、社会福祉の方と別れておりますが、幼稚園の保護者の方でも働いている方はおり、それでもあえて幼稚園に預けている方もいらっしゃいますけども、その形態が変わることで生活が変わることはないと思えますので、特に問題は無いと思えます。

山本(昭)委員

すみません。補足をさせてください。今会長様が言いました通り、幼稚園は学校教育、保育園は児童福祉施設ということで文部科学省と厚生省というようになっているのですが、今までは仁科幼稚園、保育園単独でやっていたながら、仁科地区の子ども達として4歳5歳の子ども達が就学前の同じ教育を受けたいというところで、保育園の子ども達と幼稚園の子ども達と一緒に保育しておりました。今年度については3歳児は幼稚園が2名、保育園が8名。何故かと言いますと、保育園の方は0歳児から入ってきますと、そのままつながっていきますので、そのまま保育園へと上がっていくのですが、幼稚園は3歳児で新しく入るところで、絶対数が10人しかいない子ども達を保育園と幼稚園とで分けている現実ではあります。ただ会長様がおっしゃったように保育内容につきましては、同じ子ども達が就学していくのですが、同じ経験の中で同じ保育内容についてというのは園としても考えて

おりますので、認定こども園になったから現状が変わるといえるのは無いように思います。ただ静岡県の認可を認定こども園として受けますけれども、私は伊豆海認定こども園が認定こども園になるときに係りましたが、今の施設として、敷地内のことや保育内容のこと、職員のこと等、条件はその対応でいけると思っております。

教育長

他はよろしいでしょうか。今、会長様と園長様からお言葉を頂きましたので、認める認めないは西伊豆町の教育委員会が決めることではございませんので、県の方にその方向で働きかけたいと思います。よろしくお願ひします。次に賀茂幼稚園の問題についてです。本年度賀茂幼稚園の新入園児は3名でした。今後も新入園児は多少の増減を繰り返しながら、同程度の人数で推移すると見られます。あまりに園児数が少なくて、平成30年度に賀茂幼稚園は休園とし、通園バスを伊豆海認定こども園まで延長してはどうかという意見があります。ところが、実行するに当たって次のような問題があります。1点目は1～2年で環境が変わるため、こどもの人格形成にどのような影響が出るのか分かりません。あまり良い影響が出るようには思えません。子ども達の流れを追ってみると、現在の賀茂幼稚園の子が伊豆海認定こども園で過ごし、そして賀茂小学校へと行くこととなります。そのうちに今度は統合小学校に行くことになるかと思ひます。そういうことを考えますと、次々と環境が変わっていきます。それが子どもに良い影響を与えるのか。踏み切る気持ちには私はなれない所です。2点目は緊急避難的な措置で、どこまで地域住民の理解が得られるかということ。説明はするにしても唐突な印象は免れないのではないかと考えます。以上の2点です。このことから、なかなか一歩目を踏み出せないでいる現状があります。皆さんはどのようにお考えでしょうか。

委員長

ただいまの教育長の説明に対しまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願ひします。

井堀委員

先ほど環境がどんどん変わっていくのはどうかと話がありました中で、人が少ないので仲良くなれるというメリットはありますが、当然デメリットもござひます。なので、同じように環境がどんどん変わっていくのはどうかかと思ひるところがあります。どうしても人数がいないと何もできないというのが一番の問題なので賛成するしかないのですが、その先も考えていかなければ

ればいけません。先ほども賀茂のほうのいじめ等の問題もありますが、目の届かなくなることもありますので、保護者的には心配な所はたくさんあるかと思えます。いじめがないというのは当たり前のことかもしれませんが、それを親が近くにあれば目に届くということもあります。登下校も近ければ見ることも出来ますが、遠くだとまったく見ることはできません。

須田委員

賀茂幼稚園は現在19名おりまして、2時に幼稚園が終わると約6人が園舎内にある保育ママに行きます。そこで4時くらいまで過ごしている現状があります。なので幼稚園ですけども、保育園のような過ごし方を過ごしている園児が約3分の1おります。先日の役員会の中で、統合の話を初めてした時にゆくゆくはみんな納得しているのかと思えます。地元の近くにある方が良いのですけれども、園児数の減少によってゆくゆくは統合は納得している印象を受けました。まだ園に入っていない保護者から園児数が少ないので園に入るのが不安という声もあります。伊豆海認定こども園に統合するのならば、丁寧に保護者の意見も聞きながら進めていくのが良いと思えます。

山本（昭）委員

意見を言ってもよろしいでしょうか。賀茂幼稚園は幼稚園しかないので、宇久須から仁科保育園に通っている子が3名います。去年も職員の子どものなのですが、1人保育園に入るということで伊豆海認定こども園に来ていた子どももおりました。その子が小学校へ就学というところで、みんなと一緒に同じ学校へ行きたいという声がありました。他の子ども達は田子小学校へ上がるのですが、その子だけ安良里の子どもなので賀茂小学校へ行くことになりました。その時一日入学の日から不安を抱えておりました。しかし今年賀茂小学校へ行ってとても楽しく、この前の参観日に行った時も楽しそうだったと話しておりまして、子ども達もそのように適応できるのだと感じました。現在も5歳児で宇久須から2名通っております。その子達は当然賀茂小学校へ行く要諦しております。保護者の方たちの不安は尽きない所もあるかもしれませんが、子ども達は保育園は仁科に通いながら賀茂小学校に行っている子ども達もおります。付けたしをさせてください。

委員長

それではこの問題につきましては、仁科は特に園も保護者も異論はないというところで話が進むかと思えます。賀茂幼稚園については教育長もどうしてもという話ではないみたいですので、もう少し統合の問題の話が事務局からあると思えますので、その中で来年度、伊豆海認定こども園に行くという

もう少し議論していきまして、今日結論を出すということではなく、何回か話し合いの中で調整していただければと思います。

教育長

そのように委員長の方からお話があったわけですが、この話につきましては、統合と同列に扱おうと話がややこしくなるということがありましたので、この資料の方にも一行だけ記載しまして、口頭で説明をさせていただいて、この場で意見を聞きたかったところです。まだ結論は出ておりませんが、そのまま保留とさせていただければと思います。持ち帰って話をするまでもございません。

委員長

他に無いようでしたら議事の方は終了させていただきたいと思います。ご協力ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

事務局長

長時間にわたるご審議、ありがとうございました。次回の委員会ですが、9月26日（火）午後7時からこちらの会場で開催したいと思いますが、既に都合が悪い方はいらっしゃいますでしょうか。

（特に発言なし）

事務局長

では、次回は9月26日ということで進めさせていただきまして、ご都合が悪い方は早めに事務局の方申し出いただければと思います。最後に閉会を副委員長にお願いいたします。

副委員長

夜間の会議ご苦労さまでした。今日色々な皆様のご意見がありましたので、参考にさせていただきます。それから今日初めて町原案が提示されました。皆さんのところも役員会等でこのことについてまだ議論をしていないということですので、次回までに役員会等を開いていただきまして、それぞれの意見をまとめていただきたいと思います。冒頭の方でも話がありましたが、この会議は5回ほどあります。最終的には3月が第5回ということで、そこで結論を出したいという考え方ですので、それについてもよろしく願います。今日は大変ご苦労さまでした。

以上